

楽しい登山・ハイキングのなかま



遊歩会だより

第2号

寒九の水汲み場(どっばら清水)を見に行きませんか

“ 菅名岳(すがなだけ)(909m) ”



菅名岳 概要

菅名岳の中腹には、ブナの原生林やカツラの巨木が植生しており、古くからの手付かずの自然が残っている。

また、五泉の水源となる清水がいたる所から湧き出ており、中でも1.5時間ほど登った所にある『どっばら清水』や、大蔵山登山口のふもとにある『吉清水』などが知られている。

『どっばら清水』はその名のとおり、山の斜面に開いた穴から水が湧き出ており、寒九の日(寒の入りから9日目。1月の中旬頃)には、五泉市の酒造会社が仕込み水を汲む行事が行われており、毎年TVニュースで報道されている。

登山道はよく整備されており、森林浴に訪れる人も多い、山頂からは蒲原平野が一望され、遠く会津の山並みや日光連山を見ることができる。

バス予定時間及び参考コースタイム

* 山行日時 **6月 7日(日)**

* 参加費

・11,000円(参加人数によって参加費は増減します)

* 募集人数 **60人**

* 前納金 **5,000円**

* 申込み(振込み)期限 **5月20日(水)**

《返金期限/6月3日(水) PM 8:00》

・振込先 間嶋浩二郎

振込番号 **00500-8-51276** (ゆうちょ銀行)

バス乗車地を**必ず記入**して下さい

バス乗車地は3カ所とも、駐車可能です

* その他

・難易度(初級)

・携行品 昼食、嗜好品、雨具、入浴道具その他

6月 7日(日)

道の駅あらい (5:30)

高田 IC 駐車場 (5:50)

頸城自動車バスセンター (6:20)

↓ 北陸/磐越道

安田 IC

↓

いずみの里駐車場 (8:50~9:10)

↓ 徒歩 (50分)

林道終点

↓ 徒歩 (40分)

どっばら清水

↓ 徒歩 (40分)

椿平

↓ 徒歩 (1時間)

菅名岳(909m)

昼食 (12:20~13:00)

菅名岳

↓ 徒歩 (50分)

椿平

↓ 徒歩 (1時間)

林道終点

↓ 徒歩 (40分)

いずみの里駐車場 (15:50~16:10)

↓

村松さくらんど温泉 (入浴)

(16:20~17:20)

↓ 磐越/北陸道

頸城自動車バスセンター (19:50)

高田 IC 駐車場 (20:10)

みちの駅新井 (20:30)

お知らせ

1. 遊歩会だより第3号の発送当番は、第6班です。

日時 6月30日(水) 午後7時から

場所 土橋 市民プラザ(旧ジャスコ跡)

2階/市民活動室

2. 今回の菅名岳の参加申込をキャンセルした方は、

6月30日午後7時~8時の間に“市民プラザ2階/

市民活動室”で申込金をお返ししますので、取り

に来ていただくようお願いします。

いまさらですが、山の装備について

*登山靴~安全と疲労防止のため、底が固く足首まであるブーツ型が良い。

*ザック~縦長でサイドポケットが大きい30リットル位が良い。

*ズボン~伸縮性のあるものが疲れにくく、行動しやすい。

*ヘッドライト~両手が使い便利(日没前下山予定でも必携)。

*非常食~非常時に備え1日分位(日帰り予定でも必携)。

*雨具~セパレートタイプ、通気性の良いゴアテックスがより良い。

*ストック~上りは短く下りは長く、特に下山時に効果がある。

*通信機器~携帯電話やアマチュア無線機、予備電池も含む。



①登山に対する意識・姿勢

さまざまな道迷い遭難の例を見てきたが、これらすべての例が、ごく普通に登山を楽しんでいる人々にも起こり得ることがわかってもらえるだろうか？

つまり、道迷いに限らないが、山の遭難事故は特別に危険なルートに挑戦する「上級者」だけが起こすのではない。また、一部の「無謀登山者」だけが遭難するでもない。遭難事故は、ごく普通の登山を楽しんでいる一般登山者に起こり得ることなのである。遭難した人の多くが「これほど簡単に遭難するとは思っていなかった」と、口をそろえて言う。それは、登山というものが、いかに危険と隣り合わせで行なわれているかを示すものである。

では、どうすれば道迷い遭難を防げるだろうか。遭難を避けるために第一に重要なことは、安全登山のためには、正しい登山技術が必要だという意識・姿勢をもつことである。

- ・登山は、リスク（危険）のある自然の中で行なわれる冒険的行為である
- ・ほとんどの遭難事故は、登山者のミスによって起こる
- ・登山者のミスは、正しい登山技術によって防ぐことができる
- ・登山を通じてめざすものは、登山技術を身につけた「遭難しない登山者」になることである

登山がリスクに満ちた自然の中で行なわれることを了承するならば、登山者は自分自身を守るために、登山の専門知識・技術が必要であることがわかる。しかし、現代の登山ブームのなかで遭難がこれほど多発しているのは、リスクに対処するための登山知識・技術を身につけている人が、いかに少ないかという状況の現われだと考えられる。

登山という遊びをするには、それなりの専門知識を学習し、技術を練習しなくてはいけないのに、それをやらないうで本番に行ってしまうという登山者が多い。そして、社会的にもその問題点が指摘されてこなかったばかりか、逆に、「難しい専門技術などなくても行けますよ……」というように、安易な方向性を助長することさえ日常的に行なわれてきた。ガイド登山やツアー登山では、お客であるビギナーを誘う目的で、そのような言葉をかけるかもしれない。しかし、専門家に連れて行ってもらおうと、自分の実力で登るのでは大きな開きがある。

本人の実力で登山をするために必要な知識・技術は多岐にわたり、修得するには地道に実践経験を重ねて学ぶしかない。事実、四半世紀前までの登山者は、山岳会に所属するなどして何年間もかけて技術を学んだのである。この地道な過程が省略されて、一足飛びにさまざまな本番の山登りにジャンプする人が多いのであれば、遭難多発状況となるのも当然であろう。

道迷い遭難は、基本的な登山知識・技術を身につけられれば、その多くが防止できると考えられる。以下の章では、道迷い遭難防止のために必要な登山技術を考えていきたい。